囚徒おぼえ書（連載第四回）

檻（おり）の暦

二十四分会（本所）　武松輝男

「止まれエ！」

「一班組、解錠！、前へ行けエ！」

宮ノ原一坑には、昇降用ゲージのおよそ六十メートルほど手前の右側に、解錠場所があった。その解錠場所は、三寸角のケヤキで頑強に造られていた。コンクリートでできた三和土から一尺六寸の、いわゆる腰の部分は、一班六人の囚徒の足が入れられるように、立柵になっていた。腰から上の部分は五寸角の格子に組まれていた。

三和土から三尺七寸ほどのところに、一尺角の窓が開けられていた。この窓では、囚徒の足首にはめられた鉄輪からのびた鎖を、六本一組に束ねた錠前をはずした。鉄輪の足枷には、約五尺の二分鉄で造られた鎖がついていた。足枷をした囚徒たちは、片方の手で鎖を握っていた。そしてその束ねた錠前をぶらさげて歩いた。

足枷をはずした囚徒は、昇降ゲージに追い込まれる。それはまるで牛や馬を追い込むのと全く同じ風景であった。人間としての感情を顕（あらわ）にすることや、自分の意志で動作することを禁じた冷ややかさで満たされていた。

「早くゲージに乗らんか」

コンクリートにはねかえって、幾重にも聞こえる看守のどなり声が、一層その空気の冷たさを増幅していた。ゲージは二十四人乗りであった。

「宮ノ原坑にはですネ、一坑と二坑とがあったです。一坑は石炭ば揚げていました。二坑は人間や馬や材料などば揚げたり降したりしていました。囚徒ば下げていたのは一坑でした。二坑はゲージばじわじわ捲きよりましたから、耳がツーンとする程度でしたが、一坑の方は捲き方が早かでしたからキンタマがヘそンところまで、ずり上がってくるようでしたデス」

坑内では、二坑の一般募集された良民坑夫が働いているところから、一坑の囚徒が働く場所へは絶対に行けないようになっていた。

囚徒が新しい切羽へ移動することになると、鉄棒をはめこみ、コンクリートで固定して坑道を遮断した。まるで動物園の猛獣の檻であった。

囚徒は獣ではない。それはたしかなことであった。呼吸もすれば米の飯も食べる。温かい血も流れている。考えることも、しゃべることも普通の者となんら変っていない。

ただ、その日の糧にも事欠く貧しさや、人間どうしののっぴきならないしがらみの中で、相手を傷つけ、あるいは殺さざるをえなかったのであった。

それが人間と獣との分れ道になろうとは、夢想だにしなかったに違いない。たしかに犯した罪の償いをしなければならない。それは言うまでもないことだ。しかし、だからといって、地の底の暗闇の中で、まるで消耗品と同じような血ヘドを吐く苦役は、償いというものから遠くはなれてしまっていた。

「今日も会えればよいが、しかし来ないだろうなあ。ああいうことをしたのだから」

それでも囚徒番号七十号は、二つの万十を携えていた。

それは、獣から逃れる一縷（る）の望みを、女と顔を会わせることでつなぎとめようとしているようであった。

鉄柵の向こうで働きたい。七十号は腹の中からそう思っていた。鉄柵の向こうは天国のように見えていた。若草が萌え、花が咲き、天女が舞っている。香ぐわしい匂いと温かい空気が漂っている。

ゲージも、竪坑の素肌も、坑道も炭壁も、そして坑木もエデンソ燭光も、囚徒部内のような冷たさはまるでない。炭函をひく坑内馬のいななきすら弾んでいる。坑道を流れてくる軌条のきしみも、かろやかである。七十号はそのように思えてならなかった。

しかし、それは安全灯の光がとどかない鉄柵の外のことで、それは空蟬の鳴き声に似ていた。

☆　☆

解錠前とゲージ

楽しい統一行事とカンパ活動

三池主婦会

三池主婦会では、一月二十二日分会長会議を開き、中間決算などの報告のあと当面の活動について協議し、つぎのような取り組みを決めました。

統一行事について

主婦会の統一行事を、きたる二月二十八日（日）に熊本県鹿本町の国民温泉保養センターで開催することになりました。

行事内容は、温泉入浴を楽しんだり、団体ゲームや、ご自慢の歌や踊りで交流し、これからの春闘や平和を守るたたかいへの鋭気を養おうというものです。

参加費は、主婦会員＝千円、中学生＝千円、小学生と幼児は六百円です。

統一行事を、より楽しく、有意義なものにするために、ご参加とご意見、ご提案を寄せて下さい。

カンパ活動について

核廃絶・軍縮国連会議への派遣をめざして、資金カンパに取り組みます。

自民党政府と財界は、行政改革の名のもとに、職場や地域にかけられているさまざまな合理化は、私たちの生活の中に入りこみ、大きく家計をおびやかしながら、軍事大国への道を進んでいます。

平和を守るために、今こそ一人ひとりの力を集めてたたかうことが大切です。ご承知のように世界の各国でも、平和をねがうたくさんの声が、たたかいとなってうねりは高まっています。

今年は、軍縮年として六、七月にかけて、第二回軍縮国連会議が開かれます。核兵器の完全禁止と軍縮を要請するために、総評主婦の会では代表を派遣することにしています。

その資金づくりのために、キーホルダー（三百円）の購入をお願いすることになりました。

ご協力をお訴えいたします。

（この項、三池主婦会事務局より）

楽しかった分会の旗開き

天道校区　一主婦

冬晴れの天気に恵まれてストーブの火もいらないほどの熱気に、いつもは広すぎるくらいの集会所が、組合員と主婦会のみなさんでいっぱいになりました。

分会統合から二年目の新春旗開きです。だんだんと少なくなって、仲間のみなさんと顔を合わせる機会も少なく、久しぶりにお会いした方との雑談に花が咲き、統合するまでは名前は知りながらも話をすることもなく他人行儀のあいさつで過ごしていたのに、身近に接して話をしていくうちに、今まで知らなかった人びとの、人の良さをつくづく感じました。

お互いに同じ地域の中で、職場で、少しずつ、少しずつ主婦会運動を心のふれあいの場にしていられると感心しました。また生き生きとした生活を持っていることを教わることもできて心の糧としてみんなが助け合っていくことが大切なことだと思います。

いろんな問題が、次から次へと起こってくる中で、私たちは生命とくらし、平和を守るたたかいを続けていかねばと思うのです。

団結旗開きは、地域、主婦会の交流の場としてほんとうに意義ある行事でした。みんなで〝がんばろう〟でしめくくりましたが、とても楽しい一日でした。

笑いころげて、楽しい一日を組合員、主婦会の方々と興じることのできる喜びは、やはり健康でなければできません。私たちは、お父さんたちの笑い声の中に、家庭の安らかさを願っています。今年こそは災害のない年にしたいものだと祈っています。

植木類・二月の手入れ

二十二分会（三川）　田上勇

※松柏類の針金かけ

今月から三月中旬までが適当です。冬期と活動期の夏場に行いますが、冬期は休眠状態なので、樹皮も堅く、傷つきにくいのと、ある程度落葉して樹形がよくわかり針金がかけやすいからです。しかし、欠点は幹が折れやすいことです。無理をしないで、徐々に曲げるようにすることです。

なお、針金は約三カ月くらいではずしてやりましょう。その後に石灰硫黄合剤の八倍液で消毒をします。消毒後はすみやかに消毒機を、できればうすくした酢で洗ってください。硫黄分はあらゆる金属を溶かします。

※せん定について

【うめ】うめは開花を前にしてつぼみを精一杯ふくらませ、その時期を待っています。花をきれいに見るためにも、花芽と枝ぶりを見ながら切り込みます。もったいないなどといわずに、徒長枝などは思いきって切り込みます。

消毒はニコチンが適当で、十分して散布します。濃いくても害はありませんが、適当にうすめて散布してください。花害がありません。

【かえで・もみじ】枝は相対して出ます。枝ぶりや枝と枝との相互間の関係を見ながら、片方をせん定します。また不用な枝や徒長枝などは切り込み、いわゆる枝詰めをします。かえでや、もみじは本来寒には弱いものです。盆栽など要注意。

【ふじ】ふじは枝や新芽が常にのびます。二～三芽残して切り詰めます。ふじは水切れをきらいます。冬の間も散水に注意します。

なお今切り込みできるものに、ヒメリンゴ、カリン、マユミ、ピラカンサ、ウメモドキなどがあります。どの場合も、切り口に石灰硫黄合剤の三倍くらいの液をぬっておくとよいでしょう。

※さつきの手入れ

花芽をつけ、寒さに耐えてじっとがまんしています。害虫から守るために消毒を。石灰硫黄合剤の八倍液を散布します。さつきは水切れに弱く、寒さにはかなり耐えることができますが、水不足には耐えられません。寒害より乾害にならないように。

消毒はどの種類にでも、石灰硫黄合剤の八倍液を散布するのが適当でしょう。

短歌　晩秋初冬

二十分会（三川）　町佳郎

二十一年振りに坑夫仲間のつどいたり手を取りて語るもなつかしきかな
老いふけし仲間も多くくさぐさを語りて宿の明りも消えず
宿の外の星降る岩湯にひたりつつ語る友もわれもはや若からず
机によりて何するとなる深秋の夜を遠きうからのこと思いいつ
金木犀の季もすでに過ぎ霜月の夕べひそかにその香しのびつ
窓の外はしぐれ降りしくいぬる前に柊二歌集を五ページ読みぬ
もみじ葉の散りてひそけき庭隅にさざん花の白きが開き始めたり
ボーナスの袋をあたたむるひまもなく夕べには支払う十万余り
くるくるとまわるネオンの理髪店前冷え迫る夕べに妻を待ちつつ
冷えきたり淡きものわが頭を濡らす雨にまじりてこぬか雪降る